

昨年11月に開催された第12回アジアシクロデキストリンカンファレンスと第41回シクロデキストリンシンポジウムの合同会議で、シクロケム(神戸市中央区)の寺尾啓二社長が、 α シクロデキストリン(α CD)とシクロデキストリン包接体の多角的な機能を基調講演した。ここではその内容の第2回目を掲載する。

◇
第1回目は、糖尿病と動脈硬化に対するシクロデキストリンを用いた改善方法を紹介した。今回は肥満改善方法の講演内容を取り上げる。

寺尾社長は肥満に対する α CDの有効性について、自社で行ったマウス試験の結果を用いて報告した。一つ目の試験ではマウスを通常食群、高

α CDの抗肥満を報告

脂肪食群、高脂肪食+ α CD群の3群に分け、それぞれを摂取させた結果、高脂肪食群は通常食群に比べて顕著に体重が増加。しかし、高脂肪食+ α CD群は高脂肪食群に比べ、体重増加量が3〜4割抑えられた。

アディポネクチン分泌量がく同じだった。この結果から、寺尾社長は脂肪細胞の減少し、むしろTNF- α など高血圧や動脈硬化に繋がる悪玉ホルモンを分泌し、アディポネクチンを分泌させることが肥満や糖尿病、動脈硬化を防ぐには重要で、大根 α ウス試験で脂肪細胞を観察したところ、高脂肪食+ α CD群は高脂肪食群との比

脂肪細胞を介して作用

シクロケムの寺尾社長

肥満には脂肪細胞が関与しており、肥大化しなければ、糖吸収抑制や脂肪燃焼促進に働く瘦せホルモン「アディポネクチン」を多く分泌する。一方、過栄養などで体内に中性脂肪が多くなると、脂肪細胞は中性脂肪を蓄えて肥大化する。

較で、脂肪細胞の肥大化を50%抑制した。さらに二つの試験では、4群目として高脂肪食+大根(抗肥満成分含有) α CD群を加えて脂肪細胞を検証した結果、同群は100%脂肪細胞の肥大化を抑制し、脂肪細胞サイズは通常食群と全

が産生する酪酸が関与しては腸内のバクテロイデス菌を維持するに